

# 美術科学習指導案（1年2組）

令和3年10月7日（木曜日）13:30～14:20 美術室

## 1 題 材 世界の仮面と出会う

### 2 題材の目標

- (1) 形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解し、粘土による立体表現を意図に応じて創意工夫して表すことができる。
- (2) 世界の仮面のイメージなどから主題を生み出し、形や色彩の美しさなどの調和を考え、表現の構想を練ることができたり、世界の仮面と文化の美しさなどを感じ取り、仮面に込められた心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げたりすることができる。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、仮面に込める意図や思いを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に主体的に取り組もうとしている。

### 3 題材設定の理由

#### (1) 教材観

##### ①題材の価値

本題材は、世界各地の仮面を鑑賞し、仮面に込められた意図や思いを感じ取り、見方を広げることを通して、自分の心情や意図を込めて表現する力を高めていくものである。

仮面に用いられている形や色彩などから、どのようなイメージが感じ取れるか考える活動などを通して、生徒たちは自分の表現したい意図に必要な形や色彩を選び、創意工夫する力を高めることができる。また、形や色彩だけでは表現されない仮面の背景にある文化などを調べ、理解を広げる活動を通して、表現したい意図や思いの見方や感じ方の幅を広げ、発想・構想する力を高めることができる。さらに、様々な仮面から世界の美術文化に触れる活動を通して、仮面の造形的な共通点や相違点、込められた思いなどを感じ取ることで、美術の創造活動の喜びを味わったり、表現したりする意欲を養うことができる。

##### ②題材の系統性

- ・1学期の「文字で楽しく伝える」では、自分を絵文字一字で表現するために、様々な形や色彩を試行錯誤し、構想について少人数で検討しながら練り上げる活動を通して、自分を表現するために必要な形や色彩を考える力を身に付けてきた。
- ・第2学年の「形と色の挑戦」では、形や色彩を考えるだけでなく、モダンテクニックなどの新たな表現方法を学ぶ活動を通して、自分の心情という目に見えないものを抽象的に表現する能力を更に高めていく。

#### (2) 生徒観（男子16名、女子18名 計34名）

- ・知識・技能について、生徒たちは色の三要素などに関する知識を学び、自分なりに表現したいイメージに合わせて形や色彩を工夫して自分の作品を制作しようとするができる。しかし、形や色彩など造形的な視点から参考作品や他の作品のよさや美しさを感じ取り、それらを効果的に表現に活用することができる生徒は少ない。これは、生徒たちが形や色彩に対する体系的な知識がまだ身に付いておらず、自分のイメージに合わせた色彩を表現する技能が十分に身に付いていないことが原因であると考えられる。
- ・思考・判断・表現について、生徒たちは自分の作品に対して使用したい形や色などを決め、楽しみながら作品を構想することができる。しかし、その形や色が自身と他者にとって同じものでも感じているイメージが違うことはまだ実感できていない。これは、他者の作品について鑑賞することはあったが、自身と他者の作品のイメージを説明して比較するという機会や、意見を出し合って作品を高めていく機会が少なかったことが原因であると考えられる。
- ・主体的に学習に取り組む態度については、美術の授業において自分の作品をよりよいものにと考える態度が身に付いている生徒がほとんどである。しかし、なかなか構想を進められなかったり、自分のイメージを適切に表現できなかったりする生徒もいる。これは、自分の表現の幅が狭かったり、どうすれば自分の表現したいイメージを実際に制作することができるか

分からなかったりすることが原因であると考えられる。

### (3) 指導観

- ・世界の仮面を鑑賞し、形や色彩などから伝わるイメージについて自分で考え、他者と意見を交換することで、自分の表現したいイメージに合わせて形や色を選択することができるようにする。
- ・世界の仮面の文化的な背景について調べ、込められた思いなどを知ることで、自分の表現したいイメージだけに留まらない形や色彩の発想を広げることができるようにする。
- ・試行錯誤する場面を「形」や「色彩」など全体で統一することで、制作全体の進行を調節するとともに生徒同士が同じ視点で構想検討することができるようにする。
- ・ロイロノートで生徒のアイデアを集約、共有することで、生徒同士がいつでも互いのアイデアを鑑賞し、自分の作品の参考にすることができるようにする。
- ・自分の構想について、少人数による「構想検討タイム」で意見を交わし、自分の作品について振り返ることで、自分の発想や構想を広げ、練り直すことができるようにする。
- ・実物大の仮面の写真を鑑賞したり、その写真を使用して仮面を装着した姿を想像したりすることで、作品制作に対する意欲を高めることができるようにする。

## 4 指導と評価の計画 美術科 1年 題材「世界の仮面と出会う」 (全9時間計画)

|   |   |  |   |        |    |  |
|---|---|--|---|--------|----|--|
| 目標  | (1) 形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解し、意図に応じて表現方法を創意工夫して表すことができる。   |  |   |        |    |  |
|   | (2) 世界の仮面のイメージなどから主題を生み出し、形や色彩の美しさなどの調和を考え、表現の構想を練ることができたり、世界の仮面から文化や美しさなどを感じ取り、仮面に込められた心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げたりすることができる。 |  |   |        |    |  |
| (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に仮面に込める意図や思いを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。 |   |  |   |        |    |  |
| 評価規準  | 知識・技能   | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度   |        |    |  |
|   | ①形や色彩、材料などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、世界各国の仮面を全体のイメージで捉えることについて理解している。  | ①世界各国でつくられた仮面の造形的なよさや美しさを感じ取り、色や形、材料などの共通点や相違点などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。  | ①美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく世界各国の仮面の造形的な共通点や相違点を感じ取る鑑賞活動に取り組もうとしている。   |        |    |  |
| ②形や色彩、材料などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、意図に応じて表現方法を創意工夫して表している。       | ②仮面に込める意図に合わせて主題を生み出し、形や色彩、材料などから創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。   | ②美術の創造活動の喜びを味わい、仮面に込められた思いなどを基に構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。 |   |        |    |  |
| 過程  | 時間  | ◎目標・課題   | ○学習活動   | 重点     | 記録 | 備考                                     |
| 出会う   | 1   | ◎世界各国の仮面を鑑賞し、形や色彩などから感じられるイメージを捉えることができる。<br>世界の仮面からどのようなイメージが伝わってくるだろうか。  | ○仮面の目的や込められた思い、思いがあるか造形的な視点から考える。<br>○形や色、材料などが感情にもたらす効果考える。  | 知<br>思 | ○  | 知①：行動観察<br>記述分析<br><br>思①：記述分析         |
|   | 1   | ◎仮面に込められた意図や思いについて理解することができる。<br>世界の仮面には、どのような意図や思いが込められているだろうか。           | ○生徒が調べてきた仮面について発表する。<br>○自分が表現したい仮面のためには、どんな色や形、素材が適しているか考える。 | 知<br>態 | ○  | 知①：行動観察<br>記述分析<br><br>態①：行動観察<br>記述分析 |

|        |           |   |   |             |   |   |
|--------|-----------|---|---|-------------|---|---|
| 試す・広げる | 1         | ◎表現したい意図を基に仮面の形を<br>発想・構想することができる。<br><br>仮面で自分の思いを表現するには<br>どのような形が適切だろうか。       | ○自分がどのような仮面を<br>表現したいのかワークシ<br>ートに形を中心にアイデ<br>アスケッチをする。                         | 思           |   | 思②：記述分析<br>ワークシート                             |
|        | 1<br>(本時) | ◎表現したい意図を基に仮面の色彩<br>を発想・構想することができる。<br><br>仮面で自分の思いを表現するには<br>どのような色が適切だろうか。      | ○自分がどんな仮面を表現<br>したいのかワークシ<br>ートに色を中心にアイデ<br>アスケッチをする。                           | 思           | ○ | 思②：記述分析<br>ワークシート                             |
| 表す     | 2         | ◎表現したい意図を基に仮面を粘土<br>で表現することができる。<br><br>アイデアスケッチを基に粘土で仮<br>面を制作しよう。               | ○アイデアスケッチを基に<br>粘土で仮面を形作る。<br>○必要があれば粘土以外の<br>材料も用いていく。                         | 知<br>態      |   | 知②：作品観察<br>態②：行動観察                            |
|        | 2         | ◎表現したい意図を基に仮面を彩色<br>することができる。<br><br>アイデアスケッチを基に仮面を彩<br>色しよう。                     | ○アイデアスケッチを振り<br>返り、配色計画を再確認<br>する。<br>○アイデアスケッチを基<br>に、作品に色付けする。                | 知<br>態      | ○ | 知②：作品観察<br>態②：行動観察                            |
| 振り返る   | 1         | ◎造形的な視点を基に、作者の意図<br>を考えながら作品を鑑賞すること<br>ができる<br><br>作品にどのような意図や工夫が込<br>められているだろうか。 | ○形や色彩、材料など造形<br>的な視点から、作者の意<br>図や工夫を考える。<br>○自分の作品について振り<br>返り、ワークシートに記<br>入する。 | 知<br>思<br>態 | ○ | 知②：記述分析<br>作品分析<br>思②：記述分析<br>作品分析<br>態①：記述分析 |

## 5 本時の展開 (4 / 9)

### (1) 目標

形や色彩など、自分の意図や思いを仮面に込めるための表現の工夫を考える活動を通して、色彩によって表現する方法を発想・構想することができる。

### (2) 展開

|                 |                |
|-----------------|----------------|
| 学習活動と予想される生徒の反応 | 指導上の留意点及び支援・評価 |
|-----------------|----------------|

|  |   |
|--|---|
| <p><b>1 前時の活動を振り返る。</b></p> <p>○自分がどのような思いを表現しようとしていたかを振り返る。</p>   | <p>○前時の振り返りを行うことで、自分が表現したい意図や思いを仮面に込めるために、どのような形の工夫をしたかを再確認できるようにする。</p>  |
| <p><b>課題：仮面で自分の思いを表現するにはどのような色が適切だろうか。</b></p>   |   |
| <p><b>2 前時で考えたアイデアスケッチを基に、表現したい思いに合わせて配色計画を立てる。(個)</b></p> <p>○仮面に込めたい思いが表現できるように、色の組み合わせによってイメージが変わることを意識して配色計画を立てる。</p> <p><b>3 自分が設定した色彩が表現できているか構想検討する。(グ)</b></p> <p>○設定した配色計画によって、表現したい思いやイメージを伝えることができるかグループごとに構想検討タイムを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のイメージ通りに計画を立てることができた。</li> <li>・自分の色のイメージと他の人の色のイメージが違っていた。</li> <li>・聞いたアドバイスから使えそうなものを一部活用したい。</li> </ul> <p><b>4 構想検討した結果を基に、配色計画を再検討する。(個)</b></p> <p>○構想検討タイムで聞いた意見やアドバイスを基に、自分の仮面の配色計画を再検討する。</p> <p><b>5 本時で学んだこと、考えたことについて振り返る。</b></p> <p>○本時で学んだことなどについてワークシートに記入する。</p> | <p>○自分が仮面にどのような意図や思いを込めたいのかを再確認させることで、それらを表現するために必要な色を考えることができるようにする。</p> <p>○一つ一つを丁寧に塗りすぎないように声をかけ、アイデアを複数考えさせることで、発想や構想を豊かに広げることができるようにする。</p> <p>○アイデアスケッチをロイロノートの提出箱に集約することで、クラス全体で常に作品の情報を共有し、生徒がアイデアを鑑賞することができるようにする。</p> <p>○自分が考えた配色計画をグループで見せ合わせ、どのようなイメージを感じるか意見を交換させることで、自分のイメージとの差異を確認することができるようにする。</p> <p>○自分の表現したい、込めたい意図や思いをグループに説明させることで、改善点について他者の意見を得ることができるようにする。</p> <p>○付箋に記入した意見を相手のワークシートに貼らせることで、いつでも意見を振り返ることができるようにする。</p> <p>○構想検討タイムの意見から必要な部分を抜き出させることで、発想や構想を更に広げることができるようにする。</p> <p>○発想が苦手な生徒には、参考作品から好きなデザインの仮面を選んで参考にさせたり、思いや色のイメージを話し合わせたりすることで発想や構想を広げられるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>【思考・判断・表現】</b><br/>       仮面に込めたい意図や思いに合わせて色彩（形）の構成を工夫しながら構想を練ることができる。（記述分析）</p> </div> <p>○本時で発想、検討したことを記録しておくことで、次の授業で前時の内容を振り返り、スムーズに制作に取り組むことができるようにする。</p> |
| <p><b>&lt;まとめ・振り返り&gt;</b><br/>       黄色と赤色を組み合わせることで、祈る対象である太陽や生命などを、明るさや情熱、前向きなイメージなどで表現することができた。</p>  |   |

**<「学びの質」を高めるための具体的な手立て>**

- ・より豊かな表現を求めて新たな発想を生み出し、構想を練り直していくための「試行活動」の設定。
- ・造形的な視点で作品を鑑賞して構想を練り直す「構想検討タイム」の設定。